



●この説明書は、必ず組立て・取付けされる方にお渡しく下さい。

■組立て・取付けされる方へのお願い

**▲注意** …組立て・取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

**▲注意**

- 漏水の原因になるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
  - ・指定個所には必ずコーキング材（別途）を充てんしてください。
  - ・排水経路を確保するため、下キャップの前面部には、シーリングをしないでください。
  - ・ねじは $2.5 \pm 0.5 \text{ N} \cdot \text{m}$  { $25 \pm 5 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$ } のトルクで止めた後、ゆるみ・ガタツキのないことを確認してください。
  - ・上・下キャップ取付け後、指定個所に防水補助シール（連窓方立に同梱）を張付けてください。

■組立て・取付け上のお願

- 必ず指定の組立てねじ・取付けねじを使用してください。
- 連窓時の組立ては、「連窓方立組立て説明書」も併せて参照してください。
- 連窓後の取付けは、「連窓方立取付け説明書」も併せて参照してください。
- 説明書およびねじセットは、必ず組立て・取付けされる方へお渡しく下さい。

■部品一覧表

■ねじ一覧表

連結部品D (上キャップ)	下キャップ	防水補助シール	収縮かくしピース
連窓方立に同梱			

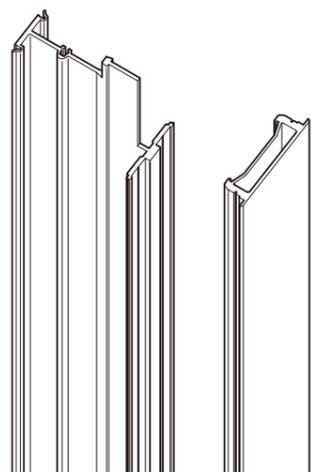
イ	ロ	ハ	ニ	ホ
バインドタッピン ねじφ4×40	ナベタッピンねじ (1種) φ4×35	バインド小ねじ M4×8	皿タッピンねじ φ4×12	ナベタッピンねじ φ4×20
亀座金				
パッキン				
連結部品Dに同梱		連窓方立に同梱		

■組立て順序

1 連窓方立上部の加工

(現場にて加工の場合のみ)

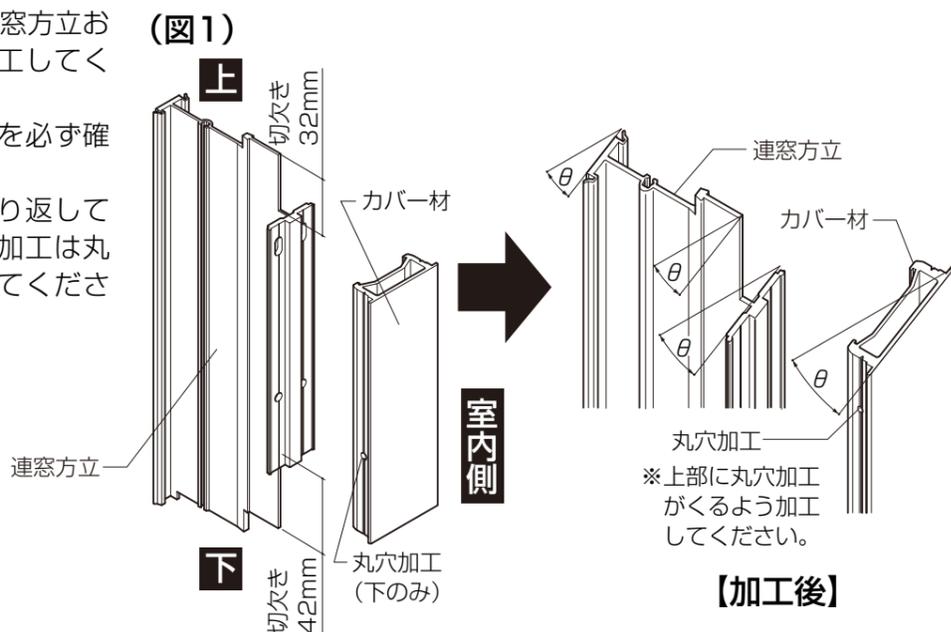
※連窓方立は連窓するサッシのサイズ (BH1) より長いものが必要となります。あらかじめ1サイズ上、もしくは20mm以上長い連窓方立を手配してください。



■組立て詳細

1 連窓方立上部の加工 (現場にて加工の場合のみ)

- 台形FIXの角度に合わせ連窓方立およびカバー材の上部を加工してください。
- ※加工前に連窓方立の上下を必ず確認してください。(図1)
- ※カバー材は上下をひっくり返して使用します。カバー材の加工は丸穴加工のある方を加工してください。

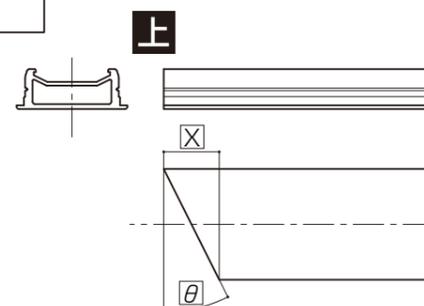
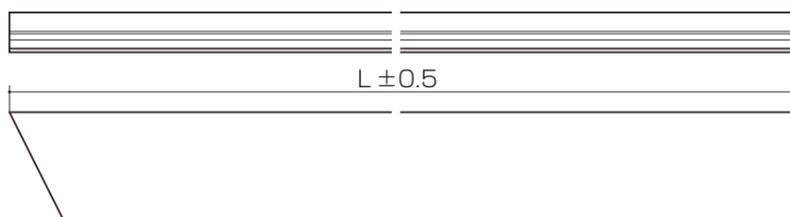


■カバー材の加工

●下表に示す寸法にしたがい、カバー材の上部を加工してください。

	5寸こう配	6寸こう配	計算式
$\theta$	26.6°	31°	
切断寸法	BH1-61.7	BH1-60.5	$BH1 - 44 - 27 / \cos \theta + 25 \tan \theta$
(X)寸法	22.5	27	$45 \tan \theta$

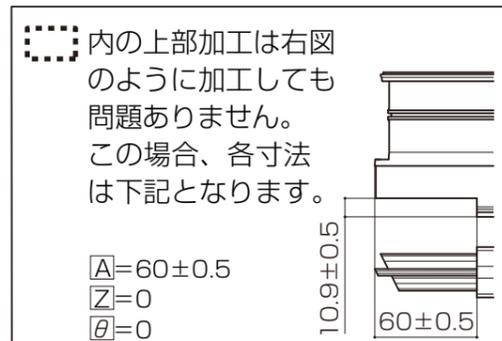
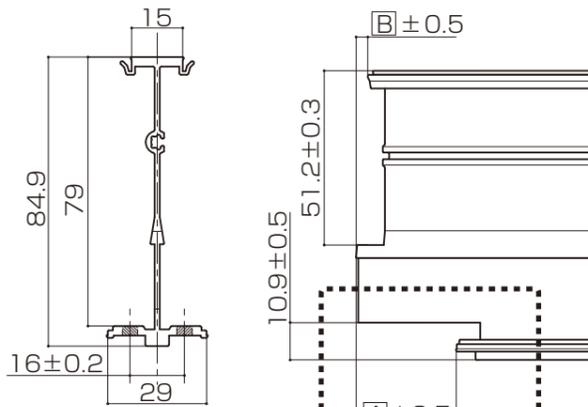
●カバー材切断寸法押え



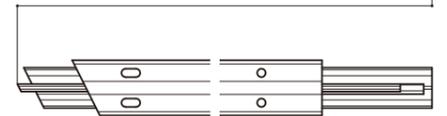
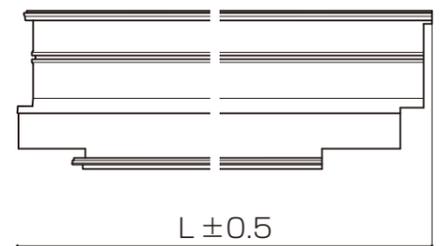
## ■連窓方立の加工

●下表に示す寸法にしたがい、連窓方立の上部を加工してください。

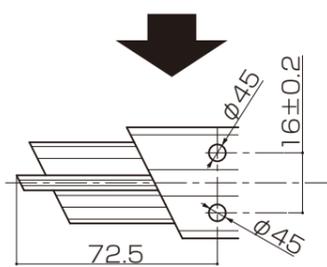
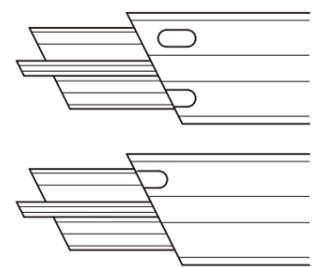
	5寸こう配	6寸こう配	計算式
$\theta$	26.6°	31°	
切断寸法	BH1+19.3	BH1+19.7	BH1+17+4.5tan $\theta$
A寸法	29.4	29.6	32/cos $\theta$ -12.8tan $\theta$
B寸法	3.4	2.9	7/cos $\theta$ -8.8tan $\theta$
(X)寸法	2	2.4	4tan $\theta$
(Y)寸法	10.8	13	21.62tan $\theta$
(Z)寸法	14.8	17.8	29.6tan $\theta$



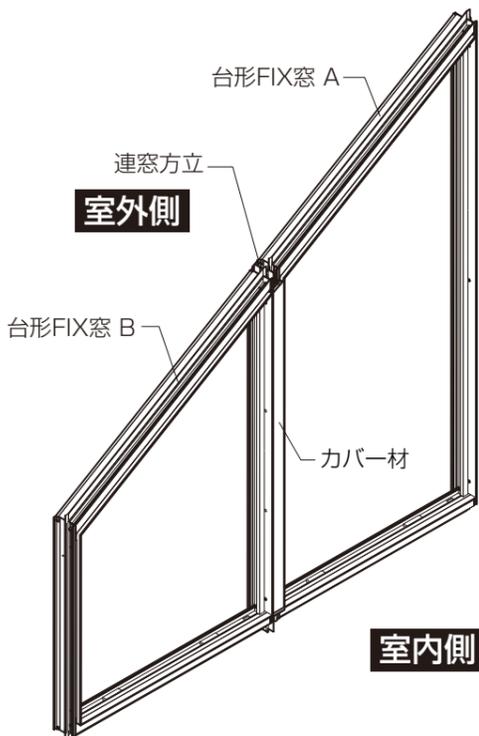
## ●連窓方立切断寸法押え



※上部加工が下図のようになり、アルミ材の上端の長穴でねじが固定できない場合は、加工後下図のように端部より72.5mmの位置にφ4.5の穴をあけてください。



## ■2連窓方立との連結

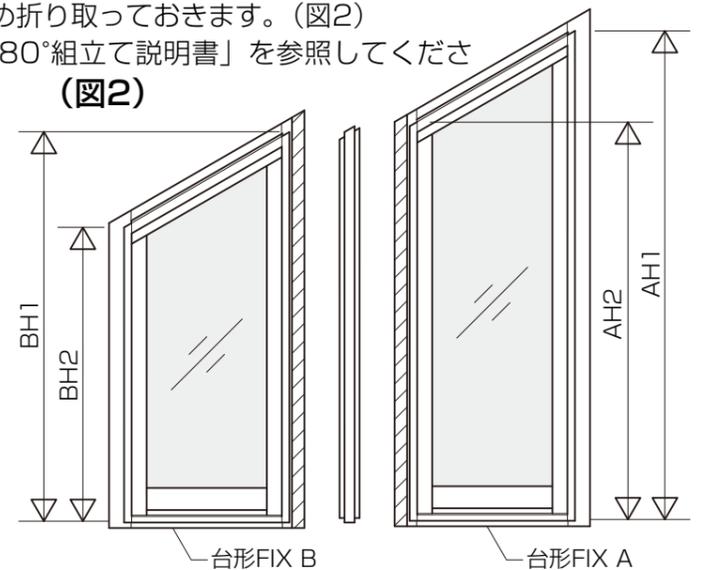


## ■2連窓方立との連結

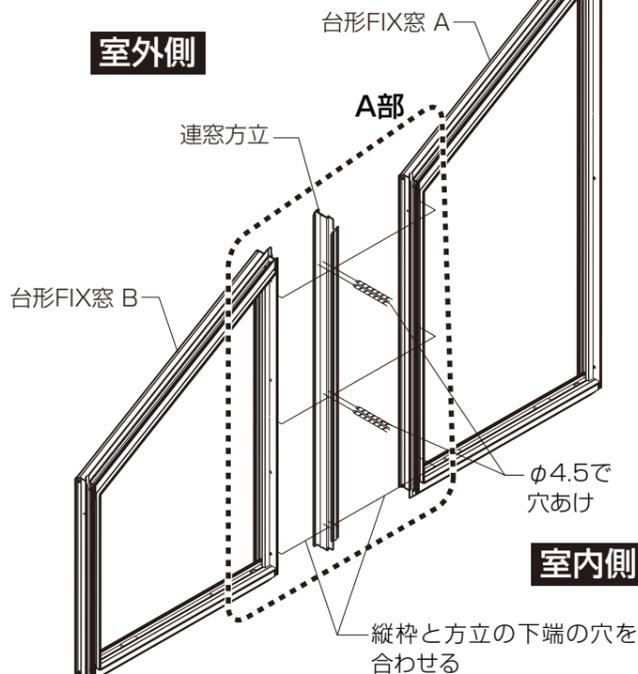
※連結する側の縦枠のフィンの $\text{\textit{斜線}}$ 部をあらかじめ折り取っておきます。(図2)

※フィンの折り取り方法については「連窓方立180°組立て説明書」を参照してください。

- ①台形FIXの縦枠と連窓方立の下端の穴の高さを合わせ、縦枠の穴と方立の長穴の位置が合うか(連結ができるか)を確認してください。方立の長穴と縦枠の穴が合わない場合は、方立にφ4.5の穴をあけるかヤスリで長穴を広げ連結できるよう加工してください。(図3)



(図3)



## ■A部詳細図

縦枠の連結用の穴

連窓方立の連結用の穴

上

ヤスリで長穴を広げます

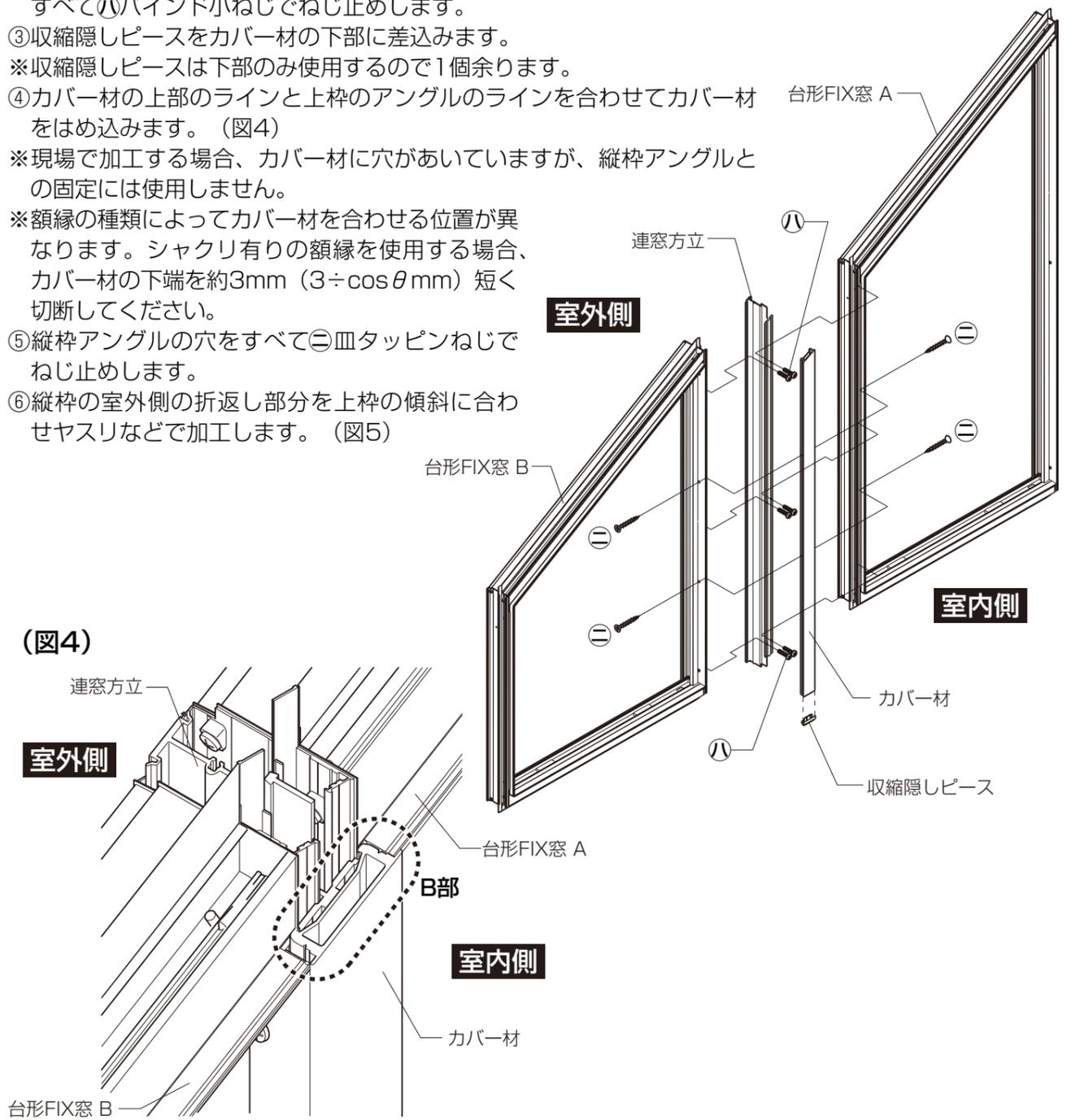
下

φ4.5の穴をあけます

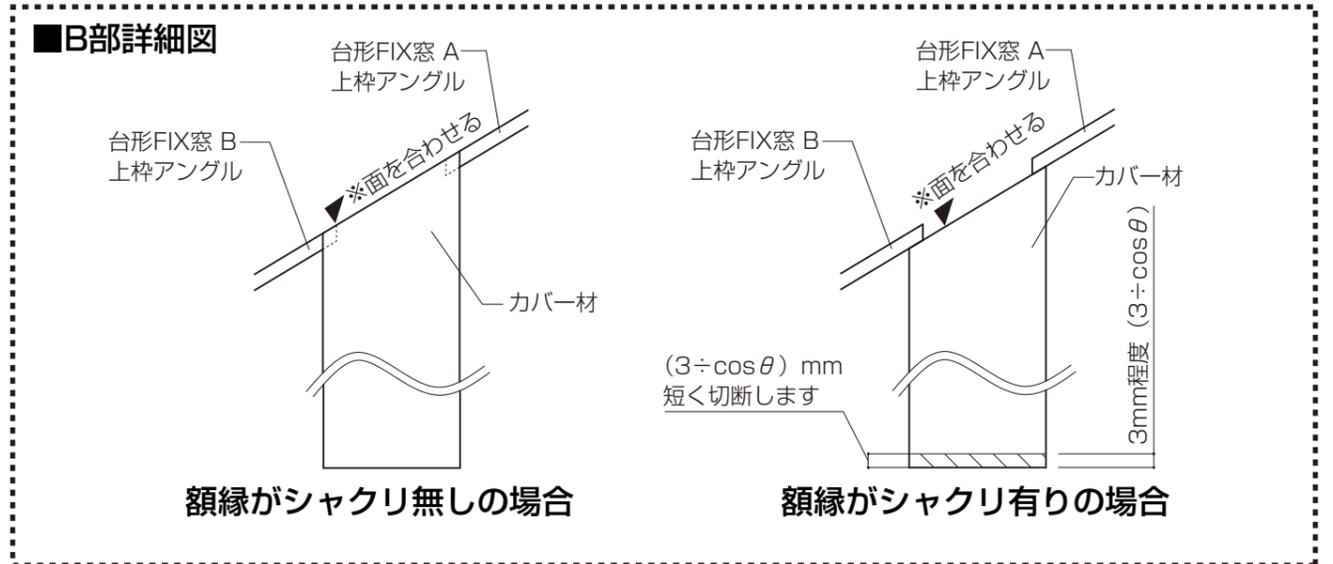
下

縦枠と方立の下端の穴の高さを合わせます

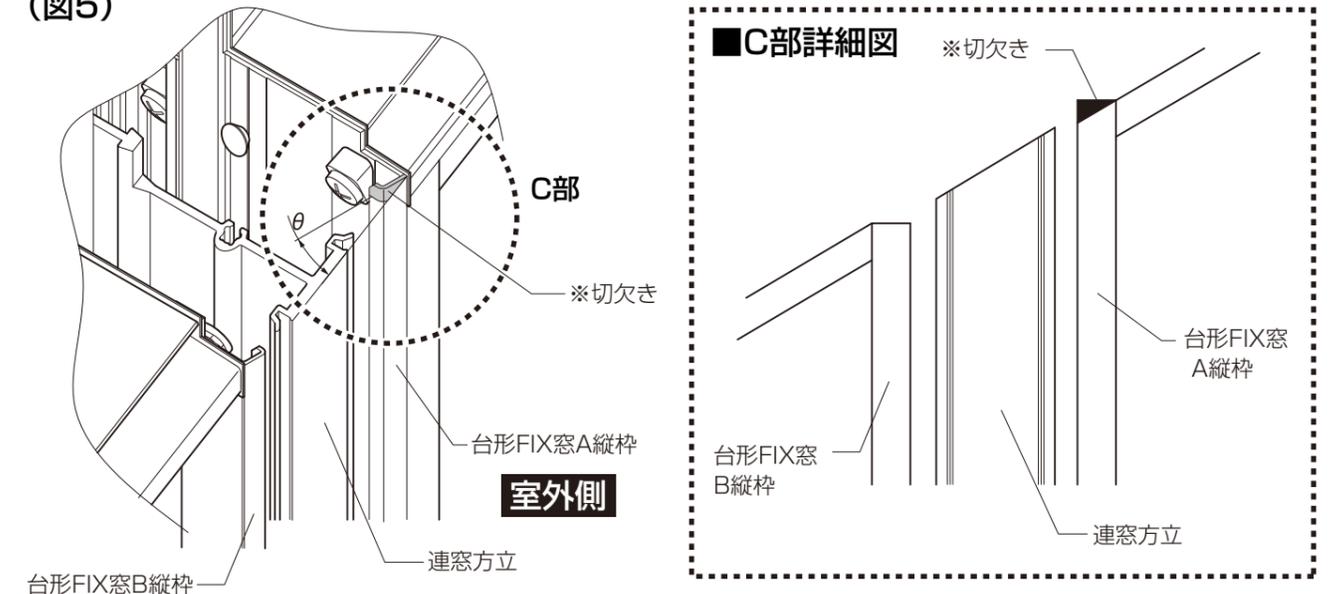
- ②連窓方立とサッシ本体の縦枠の下端の穴を合わせながらはめ込み、穴をすべて①バインド小ねじでねじ止めします。
- ③収縮隠しピースをカバー材の下部に差込みます。  
※収縮隠しピースは下部のみ使用するので1個余ります。
- ④カバー材の上部のラインと上枠のアングルのラインを合わせてカバー材をはめ込みます。(図4)
- ※現場で加工する場合、カバー材に穴があいていますが、縦枠アングルとの固定には使用しません。
- ※額縁の種類によってカバー材を合わせる位置が異なります。シャクリ有りの額縁を使用する場合、カバー材の下端を約3mm ( $3 \div \cos \theta$  mm) 短く切断してください。
- ⑤縦枠アングルの穴をすべて②皿タッピンねじでねじ止めします。
- ⑥縦枠の室外側の折返し部分を上枠の傾斜に合わせてヤスリなどで加工します。(図5)



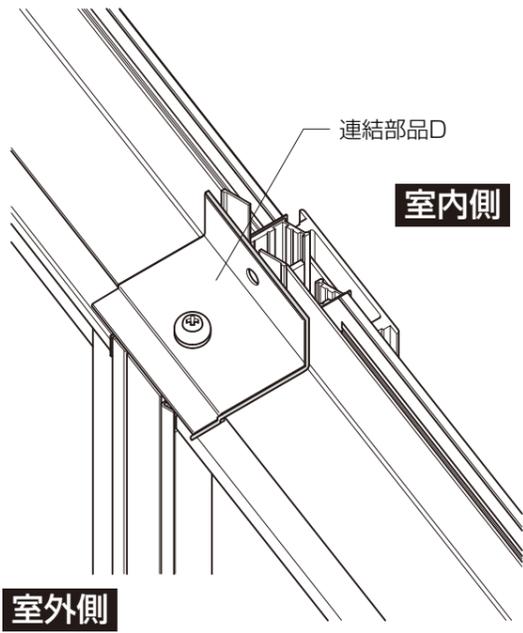
(図4)



(図5)



### 3 連結部品Dおよび下キャップの取付け



室外側

### 3 連結部品Dおよび下キャップの取付け

① 亀座金とパッキンを①バインドタッピンねじに組み込み、連結部品Dを固定します。(図6)

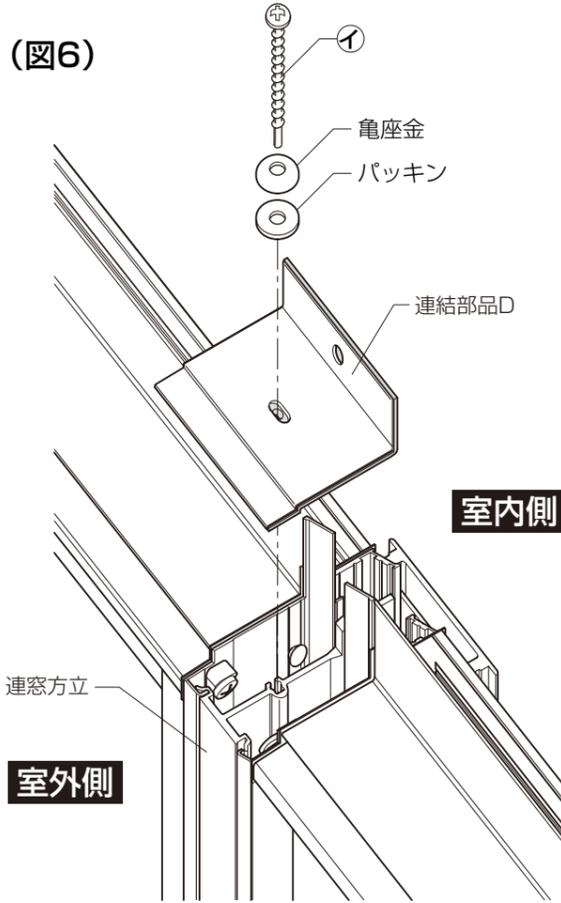
② 連結部下部に下キャップを取付けます。(図7)

※ 下キャップおよび取付けねじ(Ⓜナベタッピンねじ)は連窓方立に同梱されています。

※ 連窓方立に同梱されている上キャップは使用しません。

③ 連結部品Dおよび下キャップ取付け後、防水補助シールの張付けと指定の箇所(■部)にコーキング材(別途)を充てんしてください。(図7)(図8)

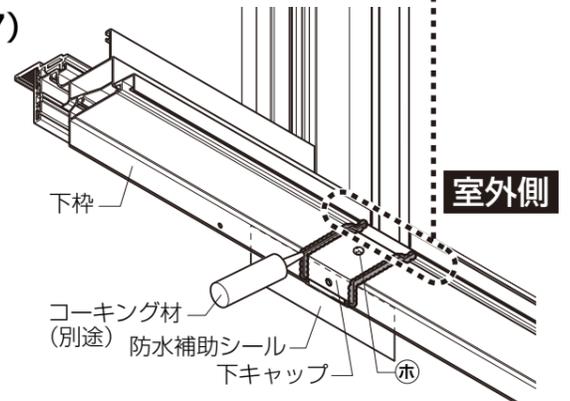
(図6)



#### ▲ 注意

● 排水経路を確保するため、下キャップの前面部にはシーリングをしないでください。

(図7)



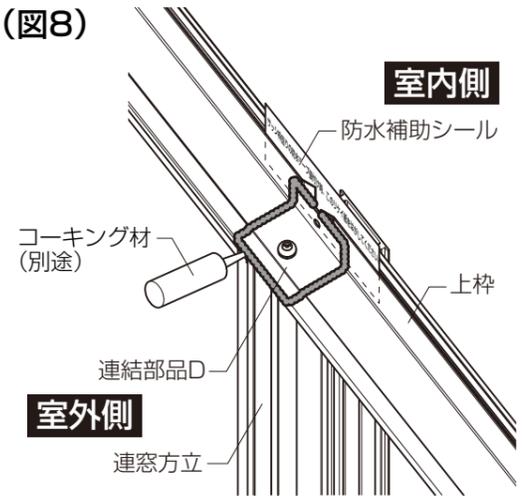
#### ▲ 注意

● 上・下キャップ取付け後、指定箇所(■部)にコーキング材(別途)を充てんしてください。

#### コーキング材について

シリコン系コーキング材は使用しないでください。ポリサルファイド系の使用を推奨しますが、変成シリコン系を使用される場合は、防水テープおよび外壁とサッシとの取り合いに使用するコーキング材と付きにくい場合がありますのでコーキング材製造業者にご確認ください。

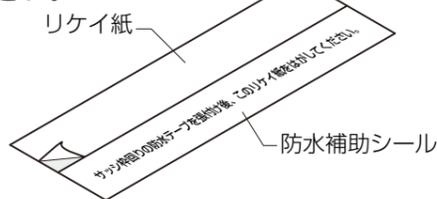
(図8)



#### ■ 防水補助シールの張付け

● 片側のリケイ紙を半分はがし、フィンの裏面に張付けます。

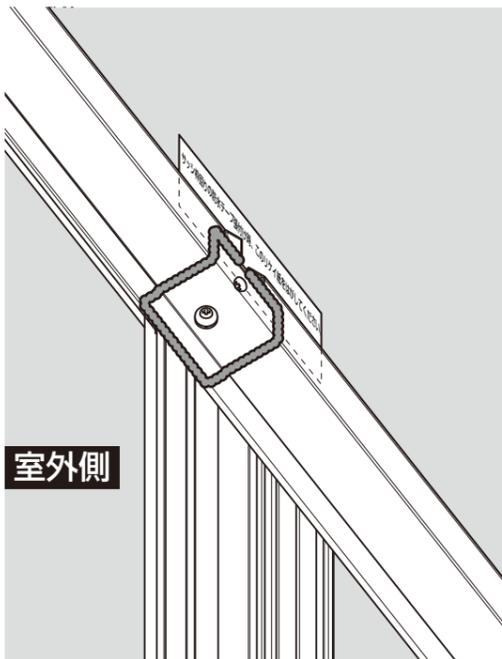
※ 必ず文字の書いていない方をはがしてください。



#### ▲ 注意

● 上・下キャップ取付け後、指定箇所に防水補助シール(連窓方立と同梱)を張付けてください。

### 4 躯体への取付け



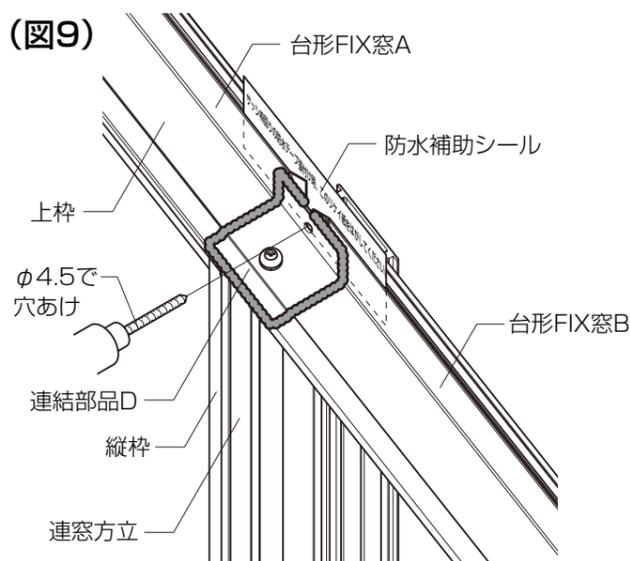
室外側

### 4 躯体への取付け

① 躯体への取付けの前に、連結部品Dにあいている穴より上枠のフィンにφ4.5の穴をあけてください。(図9)

② 連窓方立の取付け説明書にしたがい、躯体への取付けを行います。

(図9)



③ 躯体への取付け後、Ⓜナベタッピンねじを使用し、連結部品Dの穴より躯体とねじ固定してください。(図10)

(図10)

